

## (2) 企画展示

### 与謝野晶子展 われも黄金の釘一つ打つ

期 間 平成25年9月28日(土)～11月24日(日) 53日間

趣 旨 歌人として知られる与謝野晶子は、短歌の他にも、詩、童話、小説、評論、古典研究など、幅広い創作活動を行ない、文学界に多大な影響を与えた。また、山梨を訪れ、上野原市や富士川町、富士北麓地域の風情を詠んだ歌を残している。63歳の生涯を華麗に生きた晶子の人生と作品を、山梨での足跡とともに約150点の資料で紹介する。



編集委員 今野寿美 (歌人)  
金井景子 (早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

展示構成 I 堺時代  
II 「明星」創刊  
III 晶子の短歌  
IV 晶子の詩  
V 晶子の小説  
VI 晶子の童話  
VII 渡欧  
VIII 晶子の古典研究  
IX 晶子の評論  
X 晶子と山梨  
XI 晩年

### (3) 特設展示

#### ① 「富士山と文学」

期 間 平成25年4月27日(土)～7月7日(日)

趣 旨 日本人があこがれと畏敬の念をいだいてきた富士山。古代から現代まで、富士をめぐる数多くの詩歌や散文が生まれてきました。文学者たちが富士にいかに向き合い、描いてきたか一。

本展は「富士を舞台に」「富士への思い」「富士を詠う」「富士を描く」の4つのテーマのもとに、歴史の変遷の中で日本人の心を託されてきた多彩な富士山の姿を、文学の中にさぐっていきます。

#### 展 示 資 料 一 覧

- 遅塚麗水「不二の高根」原稿  
遅塚麗水『日本名勝記』上巻 1898(明治31)年8月 春陽堂  
遅塚麗水ほか『金剛杖』明治40年9月 春陽堂  
志賀重昂『本風景論』1900(明治33)年8月11版 政教社  
野中 至『富士案内』1901(明治34)年8月 春陽堂  
小島烏水補修『富士山大観』1907(明治40)年8月 如山堂書店  
山梨県南都留郡教育支会編『富士山案内』1914(大正3)年6月 東京堂  
『伊勢物語画帖』室町時代か 個人蔵  
橘経亮・山田以文校『万葉和歌集校異』三 1805(文化2)年版  
『古今和歌集』1759(宝暦9)年版  
『新古今和歌集』上下 1799(寛政11)年版  
『絵入 竹とり物語』上下 刊記不明  
荻生徂徠『徂徠集』卷之十五 1736(元文元)年序文  
賀茂季鷹『富士日記』1823(文政6)年版  
布能文谷筆 辻嵐外肖像・嵐外句「不尽の山見ながらしたき頓死哉」軸装  
小島烏水『銀河』1901(明治34)年8月 内外出版協会  
小島烏水『不二山』1906(明治39)年8月 増補改訂第5版 如山堂書店  
小島烏水『山水美論』1908(明治41)年7月 如山堂書店  
小島烏水『名家の旅』1908(明治41)年7月 朝日新聞社  
小島烏水『偃松の匂ひ』1937(昭和12)年9月 書物展望社  
小島烏水『山谷放浪記』1943(昭和18)年5月 青木書店  
武田久吉「富士の大沢と御額」原稿 アルプ第174号掲載 個人蔵  
武田久吉『日本地理大系 富士山』1931(昭和6)年9月 改造社  
武田久吉『明治の山旅』1971(昭和46)年6月10日 創文社館蔵  
深田久弥「富士山」原稿 個人蔵  
深田久弥『日本百名山』1964(昭和39)年9月 2刷 新潮社  
深田久弥編『富士山』1940(昭和15)年10月 青木書店  
松方三郎『遠き近き』1951(昭和26)年10月 龍星閣  
若山牧水「山なだりなだらふ張りの四方に張りて静もりふかき富士の高山」軸装  
若山牧水『くろ土』1921(大正10)年3月 新潮社  
若山牧水著・若山喜志子編『櫻・酒・富士』1940(昭和15)年9月 新聲閣  
窪田空穂「青海に裾ひく富士のすみ渡る秋空のうへに白き峰をおく」軸装  
窪田空穂『泉のほとり』1918(大正7)年4月 東雲堂書店  
「文章世界」第15巻第8号 1920(大正9)年8月  
大町桂月「ふもとより頂までも」短歌扇面  
山崎方代「不二が笑つてゐる石が笑つてゐる笛吹川がつぶやいてゐる」軸装  
草野心平「不二」詩 軸装(「地球とともに夜をくぐり…」)  
草野心平画「黒富士」額装  
草野心平『富士山』(限定版第5冊)1943(昭和18)年7月 昭森社

草野心平著・棟方志功板画『富士山』1966（昭和41）年6月 岩崎美術者  
 草野心平『富士の全体』1977（昭和52）年7月 五月書房  
 草野心平「富士山六題」折帖  
 田中冬二「富士ビューホテルにて」詩 額装  
 高浜虚子「三省楼醉事 雪を省み花を省み春の富士」短冊  
 渡辺水巴 句集『富士』原稿  
 渡辺水巴『富士』1943（昭和18）年10月 青磁社  
 富安風生「赤富士に露滂沱たる四辺かな」軸装  
 富安風生『富士百句』1969（昭和44）年3月 春秋会  
 飯田蛇笏「死火山の膚つめたくて草いちご」軸装  
 飯田蛇笏「富嶽登攀」原稿  
 伊藤生更「みんなみの空に一つの雲ありてしづかに富士の峯に近づく」額装  
 伊藤生更『甲斐之國』1965（昭和40）年8月 美知思波発行所  
 佐野四郎「日のゆふべ行きて耕さむおもひわくすくひの如き富士みゆる丘」軸装  
 佐野四郎『富士と篁』1984（昭和59）年1月 伊麻書房  
 中村星湖「少年行」原稿  
 中村星湖「熔岩のくずれの富士の裾は」軸装  
 中村星湖『少年行』1907（明治40）年5月 金尾文淵堂（「早稲田文学」第18号臨時増刊）  
 中村星湖『少年行』1919（大正8）年12月第14版 新潮社  
 中村星湖『少年行』1947（昭和22）年3月 塙書房  
 中村星湖『定本 少年行』1957（昭和32）年5月 山人会  
 中村星湖『少年行』1974（昭和49）年6月 私家版（中村顕一）  
 中村星湖「幸ひはこゝにこそすめ朝にたち夕かゞよふ富士やまの裾」色紙  
 中村星湖「富士の残雪」原稿  
 中村星湖「忍野八海（「うら富士雑話」）」草稿  
 中村星湖「富士五湖の話」原稿  
 中村星湖「富士百態」草稿  
 中西悟堂『野鳥と共に』1935（昭和10）年12月 巢林書房  
 井伏鱒二『七つの街道』1957（昭和32）年11月 文藝春秋新社  
 「別冊文藝春秋」1956（昭和31）年12月  
 井伏鱒二「船津村の窯址」原稿  
 「新潮」第69巻第11号 1972（昭和47）年10月  
 「海」1976（昭和51）年1月  
 井伏鱒二『岳麓点描』1986（昭和61）年4月 弥生書房  
 「海」発刊記念号 1969（昭和44）年6月  
 武田泰淳『富士』1972（昭和47）年10月 中央公論社 特製愛蔵本  
 武田泰淳「富士」第9回原稿（「海」1970年6月掲載）個人蔵  
 司修『富士』挿画エッチング  
 武田泰淳「富士」書 色紙額装 個人蔵  
 武田百合子『富士日記』序文冒頭原稿  
 「海」1976（昭和51）年12月 武田泰淳追悼号  
 武田百合子『富士日記』上下 1977（昭和52）年10月・12月 中央公論社  
 武田百合子『日日雑記』1992（平成4）年7月 中央公論社  
 新田次郎『強力伝』1956（昭和31）年2月再版 朋文堂  
 「サンデー毎日」第1134号 1951（昭和26）年11月10日（「強力伝」掲載）  
 新田次郎『蒼氷』1957（昭和32）年9月再版 朋文堂  
 新田次郎『芙蓉の人』1971（昭和46）年5月 文藝春秋  
 新田次郎『富士に死す』1974（昭和49）年6月 文藝春秋  
 新田次郎『怒る富士』1977（昭和52）年11月第4刷 新潮社（『新田次郎全集』22巻）  
 新田次郎『富士山頂』1981（昭和56）年7月第21刷 文藝春秋

新田次郎「富士と私」原稿  
新田次郎「富士山を守れ」原稿  
津島佑子「火の山—山猿記」草稿  
津島佑子『火の山—山猿記』1998（平成10）年6月 講談社  
「群像」1996（平成8）年8月  
石原初太郎『富士山の自然界』1925（大正14）年6月 山梨県  
「文体」第2巻第2号 1939（昭和14）年2月  
「文体」第2巻第3号 1939（昭和14）年3月  
太宰治文学碑「富士には月見草がよく似合ふ」拓本（井伏鱒二書）軸装  
太宰治『富嶽百景』1943（昭和18）年1月 新潮社 昭和名作選集28  
太宰治 井伏鱒二宛書簡 1939（昭和14）年1月24日  
芥川龍之介「富士山」原稿  
「太陽」第29巻第8号 1923（大正12）年6月 特集・日本山水大観（河合醉茗「富士山麓めぐり」掲載）  
「太陽」第32巻第8号 1926（大正15）年6月 特集・自然美の日本（村松梢風「家居の富士」掲載）  
徳永寿美子「富士と甲州」原稿  
有馬頼義「富士には登ったこともあり…」原稿  
高間惣七「富士」原稿  
李良枝「富士山」原稿コピー  
「群像」1989（平成元）年7月～9月  
「芥川賞作家 李良枝富士に踊る」ポスター 1989（平成元）年10月31日 富士五湖文化センター  
柳原白蓮賛 名取春仙画「人いまだ神にてありし古き代の」額装  
萩原英雄「山又山」（県立文学館講堂緞帳の原画）  
足立源一郎「三つ峠」油彩  
狩野栄信 富士霊亀図 軸装 個人蔵  
辻嵐外自画賛「天つちをはなれてふじの夜の明る」軸装 個人蔵  
辻嵐外自画賛「おもしろき世を一はいにふじの山」軸装 個人蔵  
のむら清六「富士図」墨彩 自画賛「母を呼ぶ声は女童花の下」額装  
谷文晁『日本名山図会』天地人 3冊 1812（文化9）年刊 個人蔵  
河村岷雪編・画『百富士』4巻4冊 1771（明和8）年刊  
『富嶽百景』3冊 1878（明治9）年1月 東壁堂  
富士登山之栞 静岡県吉原町錦光館写真部  
岳麓「富士五湖」絵葉書  
官幣大社浅間神社境内 富士山頂上絵葉書  
山岸旅館 国立公園富士五湖案内 リーフレット  
徳富蘆花『自然と人生』1931（昭和6）年2月改版500版 民友社  
夏目漱石『三四郎』1909（明治42）年5月 春陽堂〈複製〉  
谷崎潤一郎『細雪』下巻 1948（昭和23）年12月 中央公論社  
川端康成『富士の初雪』1958（昭和33）年4月 新潮社  
三島由紀夫『鏡子の家』第二部 1959（昭和34）年9月 新潮社

## ② 「あそぶぜ！かいけつゾロリのおたのしみ大さくせん

### ～原ゆたかとゾロリのなかまたち」

期 間 平成25年7月20日(土)～8月25日(日)

趣 旨 原ゆたか先生の児童書「かいけつゾロリ」は、1987年にポプラ社から発刊され、これまでに51巻が刊行され続けている人気のシリーズです。

本展では、鎌倉文学館開催の企画展（2008年7月12日～9月21日）をもとに、かいけつゾロリシリーズと作者原ゆたか先生をご紹介します。

夏休み期間中、子どもたちに本に親しみ、楽しんでもらう展覧会です。



## ③ 新収蔵品展 手書きの魅力

— 飯田蛇笏・足立源一郎・田中冬二・山本周五郎・深沢七郎ほか —

期 間 平成26年1月25日(土)～3月23日(日)

趣 旨 平成24年度から今年度にかけて新たに収蔵した飯田蛇笏、足立源一郎、田中冬二、山本周五郎、深沢七郎などの直筆資料を公開する。

寄贈・寄託・購入による資料収集の成果を広く周知し、収蔵後の初公開の場として、文学資料の魅力を紹介していく。

### 展 示 資 料 一 覧

芥川龍之介 「戯作三昧」原稿

「山房の秋」原稿

「父」草稿

山本周五郎 「やぶからし」原稿

中村星湖 「魚の番人」原稿

「其角が「明星や」の句」原稿

中村星湖 川島順平宛書簡 1929（昭和4）年1月18日

中村星湖 川島順平宛書簡 1929（昭和4）年1月29日

釈迢空 「さくらはなちりちりにしもわかれゆくとほきひとりと君もなりなむ」色紙

菊池寛 「藤十郎の恋」原稿

正宗白鳥 「散文的に見て」原稿

横光利一 「富ノ澤の死の真相」原稿

飯田蛇笏 「芋の露連山影を正うす」額装

「夏山や又大川にめぐりあふ」軸装

「虹に啼き雲にうつろひ夏雲雀」軸装

「俳句の自由主義的伸展」原稿  
「秋たつや川瀬に交る風の音」短冊  
「瀧風に吹かれ上りぬ石叩」色紙  
「山居即事 鶏高く榎の日に飛べる深雪哉」色紙  
松尾芭蕉句碑「勢ひあり氷消えては瀧津魚」拓本軸装  
「芭蕉翁句碑再建 蛇笏先生招待記念講演及俳句会 句会原稿」1951（昭和26）年10月

飯田龍太 「満月の冴えてみちびく家路あり」色紙

高室呉龍 雲母俳人十六人作品 額装 1948（昭和23）年10月

高室呉龍ほか「春愁」寄せ書き 折帖

足立源一郎 八ヶ岳赤岳と阿弥陀岳甲斐大泉にて 油彩 1960（昭和35）年3月

初夏の甲斐駒 日野春にて 油彩 1970（昭和45）年

白頭山天池畔大正峯下幕営地にて 油彩 1942（昭和17）年

蘇州彩雲橋 油彩 1943（昭和18）年

北無頭峯の肩にて 水彩

京中央公園 油彩

穂高本谷丸木橋 水彩 1951（昭和26）年

富士山 水墨

会津八一 賛 足立源一郎 拓本「大和三輪弥勒谷石仏拓本」軸装

「甲斐駒」年不明11月11日

「南アルプス 櫛形山にて」1969（昭和44）年6月24日

「南アルプス連峰勝沼祝橋にて」年不明11月3日

スケッチブック「朝鮮」1938（昭和13）年5月

スケッチブック「華北華中」1943（昭和18）年7月

スケッチブック「八ヶ岳川原湯小仏峠」1931（昭和6）年秋

スケッチブック「南アルプス」1931（昭和6）年5月

日記 1936（昭和11）年6月1日～1937年5月18日／1949（昭和24）年

「巴里とアルプス日記」

写真パネル 岐阜県の猫岳頂上で 1935（昭和10）年1月28日

写真パネル 鎌倉のアトリエにて 1960（昭和35）年頃

写真パネル 北穂高の大岸壁龍谷にて 1960（昭和35）年頃

写真パネル 1965（昭和40）年頃

堀口大學 「応制歌」色紙

田中冬二 「山麓遅日」軸装

「田沢温泉」軸装

「清水を祇園へ下る菊の雨」軸装

「笛の音」軸装

「卯の花垣に」軸装

「翡翠」軸装

「故園の菜」1975（昭和50）年11月

田中冬二 関口昭良宛書簡 1976（昭和51）年4月10日

「新月」1976（昭和51）年9月10日

田中冬二 関口昭良宛書簡 1977（昭和52）年4月28日

「故園の菜抄」1979年9月27日

秋山秋紅蓼 朝月山にある牡丹の咲く」額装

「壺中天地ありこゝに一個の密柑を置く」軸装

井伏鱒二 「はるのねぎめのうつゝできけばとりのなくねでめがさめました」軸装

木山捷平 山田幸男 筆「無門庵」額装

「暗闇まつり」原稿

太宰治 太宰治 竹村坦宛書簡 1939（昭和14）年4月28日消印

小田嶽夫 小田嶽夫 田中栄一宛書簡 1973（昭和48）年2月18日

小田嶽夫 田中栄一宛書簡 1973（昭和48）年3月6日

- 三島由紀夫 三島由紀夫 坊城俊民宛書簡 1969（昭和44）年3月12日  
 三島由紀夫 坊城俊民宛書簡 1970（昭和45）年11月19日
- 深沢七郎 深沢七郎 河村学而宛書簡額装 年不明4月10日
- 山崎方代 山崎方代 山崎一郎宛書簡 年不明3月29日  
 山崎方代 山崎一郎宛書簡 1955（昭和30）年11月23日
- 井上靖 「海」原稿額装
- 武田百合子 「日日雜記」原稿
- 草野心平 「甲州との縁」原稿
- 佐多稲子 「ぶどうの連想」原稿
- 石川達三 「前田君の新著について」原稿
- 加藤楸邨 「秋の螢」原稿
- 田宮虎彦 「甲斐の国との繋がり」原稿
- 八木義徳 「私と甲州」原稿  
 「花盛りの一日」原稿  
 「美しき晩年のために」原稿
- 長谷川かな女 「吉祥天にかざし枝垂れし紅桜」軸装
- 松村蒼石 「雪解川海に流れ入るうひうひし」色紙  
 「荒鋤の田のひろがりに桃咲けり」短冊  
 「風そへる夕日しほるゝ芙蓉かな」短冊  
 「郭公やわが詩つひにひそかなる」短冊
- 西東三鬼 「死火山麓泉の声の子守唄」色紙
- 幡谷東吾 「縣境の一水をへて風青し」色紙
- 星野立子 「正月の日のさんさんと藁家あり」短冊
- 中村草田男 「炎熱や勝利の如き地の明るさ」色紙  
 「虹より上に高みを仰ぐ神あるなり」短冊
- 藤田湘子 「愛されずして沖遠く泳ぐなり」軸装  
 「筍や雨粒ひとつふたつ有」色紙
- 飯島晴子 「大綿に明眸くもるすべもなし」色紙
- 田川飛旅子 「蝶出でゝ耳無山も指呼のうち」色紙
- 遠山壺中 「魚河岸のどこも朝日子彼岸潮」色紙  
 「福寿草叱言はじめの膝高く」短冊  
 「かたくりの花より孤独なる暮色」短冊
- 丸山哲郎 「繭中にゐるあかるさの淑気かな」色紙
- 長谷川朝風 筆・画 「新涼の鈴をたまはる猫の胸」短冊
- 石原舟月 「おもひしつむことくなかるゝ冬の水」短冊
- 岸田稚魚 「光陰のやがてうす墨さくらかな」色紙
- 磯貝碧蹄館 「涙腺を持たぬ木馬に冬日がさす」色紙
- 金子兜太 「鮮紅の昼月墜ちる小牛の前」短冊  
 「霧の樹頭地に甲虫の交わり満ち」短冊
- 楠本憲吉 「寒雲の片々たれば仰がるゝ」短冊
- 原子公平 「夏草へ戦後袋路みな消えて」短冊
- 堀内洋子 「祝人伝」挿絵原画
- 遠山はるみ 「嵐の前に」挿絵原画
- 村松誠一 「狐提灯」挿絵原画
- 保坂博司 「探骨」挿絵原画
- 中島三郎 「瑠璃」挿絵原画
- 早川喜代子 「別れていどいちゆる」挿絵原画

